

地域力を生かした「福祉のまちづくり」を主体的に取り組む担い手について

山県市民生委員児童委員協議会

山県市について

山県市は、平成15年4月1日に、高富町、伊自良村、美山町の三町村が合併して誕生しました。本市は、岐阜市の北側に隣接する位置にあり、北端の日永岳を最高峰として枝状の山地と、長良川支流の武儀川、鳥羽川、伊自良川沿いの平坦地で構成されています。

また、当市は、NHK大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公である明智光秀ゆかりの地であり、市内には、明智氏の本流・美濃国守護であった土岐氏の最後の本拠地である大桑地区や、光秀の出生や晩年にまつわるさまざまな伝承が残る美山地域中洞地区などがあります。

このまちには歴史に刻まれた人々、文化を育んだ人々の営みが息づき、地域に根ざした産業が培われています。

山県市民生委員・児童委員協議会について

山県市は、人口26,795人、世帯数10,911戸（令和2年3月31日現在）、高齢化率は35%となっています。

民生委員児童委員の数は、高富、伊自良、美山の三中学校区から選任された74名（うち主任児童委員7名）で構成されています。

定例会は毎月一回各地区で開催され、全員で「民生委員信条」を唱和して会を開きます。市役所、市社会福祉協議会、

地域包括支援センター、警察官駐在所等の職員も交え、情報交換をしています。各委員が担当する地区でのケースを事例発表し、今後の活動の参考となるよう話し合っています。

また、全地区委員を高齢、児童、民生部の三部会に分け、それぞれの部会の趣旨にあった活動や研修を行うなど、子どもから高齢者まで「福祉の目」が行き届いたまちとなるよう取り組んでいます。



▲美山民生委員児童委員協議会定例会～事例発表について～

地域に根ざした活動について

それでは、山県市社会福祉協議会と協働で行っている事業の中から、いくつか紹介させていただきます。

【高齢者世帯リストの活用】

日頃の高齢者見守り活動をするための情報源として、市社会福祉協議会と「高齢者世帯リスト」を作成しています。このリストは、70歳以上の一人暮らし高齢

者または高齢者のみの世帯の方を対象としており、登録すると次に紹介する「ほほえみ冊子」のお届けや福祉サービスの案内等を受け取ることができます。

日々の活動の中で接する高齢者に登録をすすめ、登録された高齢者の訪問活動を行っています。

また、このリストに登録された高齢者の方の中で、要配慮者と思われる方には、市社会福祉協議会、自治会長、民生委員、消防団等の団体に組織する「まめネット協議会」が整備している「安心いきいき台帳」にも登録をすすめています。「安心いきいき台帳」は、緊急連絡先も記載されているため、いざというときに効力を発揮します。住民同士が日頃から助け合える地域づくりに取り組んでいます。

【「ほほえみ冊子」の配布】

月一回発行の「ほほえみ冊子」を届けることにより、見守り安否確認をします。この冊子は、市社会福祉協議会によって作られたもので、季節に合った歌の歌詞、今月の誕生日の方の紹介などをボランティアの方が手書・製本した手作りの冊子です。平成15年4月三町村の合併時から続けられていて、昨年10月には200号となりました。

委員は各単位民児協の定例会で冊子を受け取り、高齢者宅へ届けます。その月の誕生日の方には誕生日カードとプレゼントもあります。

この冊子は、高齢者リストに登録される高齢者のみの世帯233世帯と一人暮らし533世帯のうち希望者に届けられます。配布数は、高富地区277冊、伊自良地区33冊、美山地区222冊で合計532冊、配布率は69%です。

高齢者宅を訪問し「ほほえみ冊子」を手渡すと、ありがたい笑顔があり訪問がしやすくなります。さらに冊子の内容などの話題で、高齢者の方に親近感が芽生え、次回の訪問を待っていてくださるなど、見守り安否確認に役立っています。見守り活動を続けるためには、高齢者に受け入れていただき、気軽に話しかけてもらえるようにすることが必要です。日頃のお付き合いを大切にしています。



▲高齢者世帯訪問～ほほえみ冊子の配布～

結びに

今年はコロナ禍での活動となり、「新しい生活様式」が示され、普段の活動も感染防止対策を実施して行っています。行政や市社会福祉協議会等と連携し、地域みなさんに寄り添った見守り活動を行い、活力ある地域共生社会の実現に向け尽力したいと思っています。